

す、上元元年(七百年七)此地を以て畋沙都督府と爲し、王伏闍雄に都督を授く。武后の長壽二年(六百年九)伏闍雄死し、子璽嗣ぎ、玄宗の開元中(七百年十)來て駿馬を獻す。璽死し、尉遲伏師立ち、伏師死し、伏闍達嗣ぎ、伏闍達死し、尉遲珪嗣ぎ、珪死し、子勝嗣ぐ。後、史の傳ふるもの無し、石晋の天福二年(九百年三)に至り、其の王李聖天來貢す。宋の太祖建隆三年(九百年六)王子德從來朝し、以來貢を絶たず。明の永樂四年(千〇四年六)其酋打魯哇力不刺金入貢す。

三、新疆旅行の好時期

北京出發以來約一年此間、大は黄河の濁流より、少は山間の一谿水に至り、高きは天山の諸巔より、低きは戈壁の沙阜に至るまで、山河を跋涉するもの幾百回なるを知らず。殊に甘肅省の西端、新疆省の全部に亘りては、殆んど夜中沙漠地帯を漂泊し、其間氣候の劇變、飲水の缺乏に遭遇せしも、僅に微恙に冒されし外、何等の異狀なかりしは、實に幸なりと謂ふべし。今や略々新疆省の行程を終へて、英領印度に出づべきに臨みたり。次で世界の高山、崑崙の跋涉は、予が旅行中、唯一の困難を感せし所、そは次章に於て之を述べんとす。兎に角新疆省の旅行も容易なりとは謂ふ